

Theme
SDGs達成に向けた人材育成



関西学院大学 学長
村田 治
Murata Osamu

推進大学
からの
コメント

SDGs推進の旗手となる人材を育成し、
大学の教育力を強化する

関西学院は将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」で、「世界的課題の解決に挑む『強さと品位』を持った人間を育てる」ことを掲げ、そのための大学教育のビジョンを「社会や世界に貢献して『真に豊かな人生』を送るための基盤を創る」と定めました。SDGsへの貢献は、本学の理念の具現度を測る1つの指標でもあり、現在、SDGs推進本部を中心に方針策定や具体的な行動計画の立案を進めています。本学はアジアで初めて国連ボランティア計画と協定を結び、開発途上国への学生派遣プログラムを始めました。15年間で100人強を派遣しており、彼女らの多くはMDGsやSDGsを推進する第一線で活動に従事し、その経験を生かして卒業後もグローバルに活躍しています。この実績を礎に、SDGs推進の旗手となる人材の育成に注力したいと考えています。

SDGsが示された国連総会の採択文書前文には、「(17のゴール、169のターゲットは)統合され不可分のものであり(略)、経済、社会および環境の3側面を調和させるもの」とあります。SDGsを推進する人材には、課題を発見・解決し得る高い専門性を有しつつも、自分の専門とは異なる分野の知識と結合させながら、17のゴールを包摂的に達成することが求められます。さらに、修得した高い専門性を具体的な行動につなげていくためには、世界や社会についての見方・価値観が重要となります。そして、実践する中では利害の衝突を調整しながらチームとして物事を成し遂げていく力が欠かせませんが、その根底に必要なのは世界をよりよくしたいという情熱ではないでしょうか。これらの能力・資質はOECDが示す「21世紀型コンピテンシー」と通底するもので、SDGsの推進そのものが、大学の教育力を強化する機会と考えられます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



SDGs(エスディーゼーズ)とは、「あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしない」ことを掲げる「持続可能な開発目標」を指す。2030年までに達成すべき17のゴール・169のターゲットから成り、持続可能な社会の実現に向けた指針を明確に示している。教育機関と関連の深い目標に、ゴール4「質の高い教育をみんなに」がある。例えば大学は、立場の弱い人々や不利な条件に置かれてい

る人々に学びの機会を提供することで達成に貢献できる。ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に対しても、最先端の研究を展開する大学が担う役割は大きい。そして、行政や産業界との連携を推進してきた大学にとって、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」も必然的に関わってくる。重要なのは、これら17のゴールは不可分な関係にあるということ。だからこそ、大学の有する「総合知」が大きな意味を持つてくるのだ。